



## 新年のご挨拶

鈴木 孝治

会員の皆様、明けましておめでとうございます。昨年ぶんせき誌は 500 号を迎え、この歴史ある会員誌の新たな表紙とともに新年が始まりました。約 6,000 名の会員各位のますますのご活躍とご健勝を祈念いたします。

さて、私は会長としてこれまで約 1 年半、当初から学会運営のスローガンとした「全員参画での財政の立て直しと事業活性化の実行」に理事および事務局員全員の協力のもとで尽力してきました。幸い一昨年 10 月から日本分析化学会の事務局局長兼常務理事として活躍された田巻 博さんを本学会の事務局局長に迎えることができ、事務局体制が強化されました。理事および事務局員が一丸となってこのスローガンにある二つの目標に向かってさまざまな知恵をしばり、さらに会員各位のご協力があった、財政はかなり改善されました。一時は 3,000 万円以上の年度赤字がありましたが、昨年度は約 400 万の赤字にまで改善され、さらに今年度は黒字化を目指しております。

一方で、財政を絞ると活性化にはつながらないという矛盾に関しては、公的資金獲得や討論会と年会の値上げと活性化による収益増加、さらには日本分析機器工業会などの産学連携強化などにより改善に取り組んできました。これには支部長・理事や討論会と年会の実行委員長並びに実行委員各位、事務局員各位、日本分析機器工業会の会長と事務局員各位のご尽力によるところが大きく、感謝しております。産学連携強化の一つには、学術会議で企画した大型分析センターと最先端分析技術開発の構想がヒアリングまで進み、学術会議の一つの重要な企画として位置づけられることになりました。また、学振からは科研費情報発信強化での大きな金額の補助が Analytical Sciences に対して今後 5 年間受けられる内諾が出て、Analytical Sciences の編集委員はさまざまな情報発信強化策を立てて努力を続けているところです。

新たな事業や企画としては、いくつかの賞の新設（女性アナリスト賞、国際貢献賞、Analytical Science 賞など）、会員区分の見直しと新設（準会員（大学生以下）、教育会員、シニア会員など）、懇談会の新設と強化（電気化学、マイクロナノ化学、バイオ分析など）、本部年会企画（2017 年 9 月東京理科大）、さらには事務体制の変更（2016 年 2 月より）や職員連絡会議（年 3 回）、学会内合同連絡会議（年 2 回）、本部企画戦略会議（年 5 回）などを検討しました。また、本部会議室をテレビ会議室化し、会議の効率化を進めてきております。

公益法人化から 6 年を迎えて昨年には内閣府の監査も済ませたことから、現在の学会の姿に合った定款および細則の変更を今後の総会に諮り、学会の新たな体制を整える予定です。こうした学会運営の考え方はこの 2 年間に留まりません。少子化に向かう社会変革のもとでの学会運営が低調にならないような工夫を絶えず考えて実行する努力が必要であり、本部の企画運営会議は企画戦略会議と定款で名称を変更する予定です。これは常に危機感を持って学会運営にあたる必要があるためです。

俯瞰的な世界情勢は中国を中心に発展の著しい国の科学技術の向上が目覚ましく、日本はアジアのリーダーシップ維持が問われているところです。このため、国際連携強化のために国際会議担当の理事を指名したほか、理事業務区分を見直して副会長業務を複数にしました。副会長をはじめとした業務執行理事の責任のもとに着実に事業が実行されるよう幹事も任命し、本部の企画と運営にあたっております。このように少しずつではありますが、当学会は健全な財政体制と学術の活性化向上を進めてきており、これからの 5 年間は最も重要な時期と考えております。さらなる学会活動の飛躍のために、本年も会員各位のご協力が欠かせません。これまでの皆様のご協力とご尽力に感謝いたしますとともに、改めて本会並びに会員各位がさらに発展することを祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお願いいたします。

[Koji Suzuki, 慶應義塾大学理工学部, 日本分析化学会会長]